

教育現場での性的指向に関する相談の現状についてのアンケート結果(概要)

■ 調査の概要

調査期間 平成22年9月

調査方法 アンケート用紙による回答(複数回答)

調査対象 市内学校の養護教諭・保健体育・児童生徒指導等の教師(91ヶ所)

回答状況 回答数 214通 (回答率 47.0%)

学校種別	小学校	中学校	高校	大学等	合計
回答数	123	63	19	9	214
送付数	235	130	65	25	455
送付校数	47	26	13	5	91
回答率(%)	52.3	48.5	29.2	36.0	47.0

回答者職種	養護教諭	保健体育	児童生徒指導	その他
回答数	66	58	30	23
割合(%)	37.3	32.8	16.9	13.0

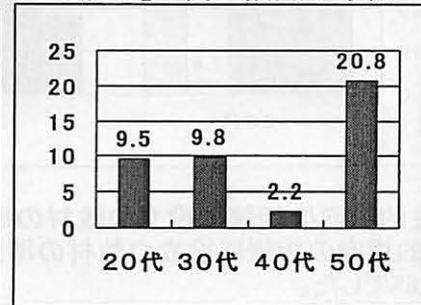
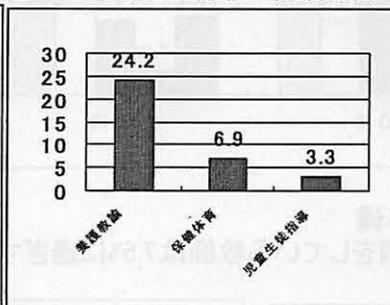
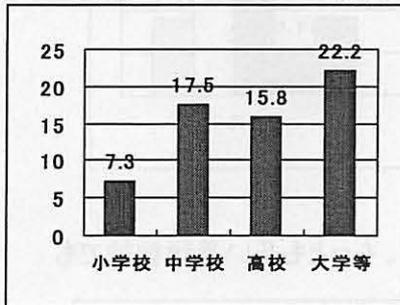
回答者年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代
回答数	42	51	45	72
割合(%)	20.0	24.3	21.4	34.3

回答者性別	男性	女性
回答数	66	80
割合(%)	45.2	54.8

■ 児童生徒からの性的指向・性同一性障害の相談

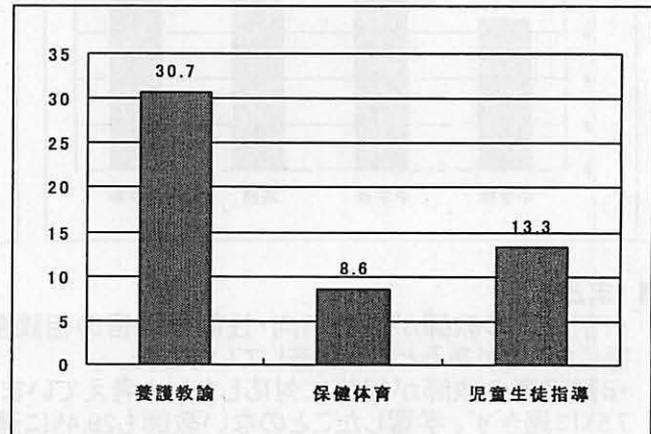
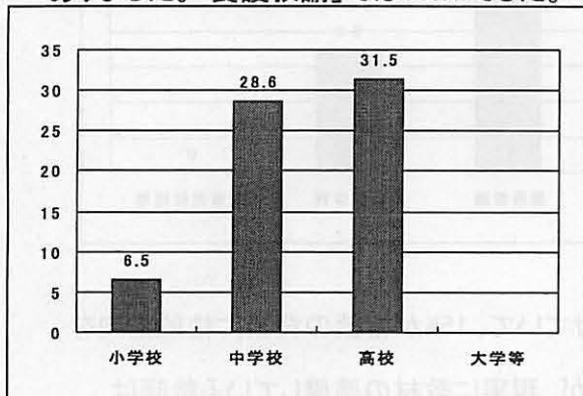
児童生徒からの性的指向・性同一性障害の相談を受けたことがある教師は11.7%でした。

学校種別では「大学等」、職種では「養護教諭」、年齢階級では「50歳代」が高い傾向がありました。



■ 相談の背景の性的指向

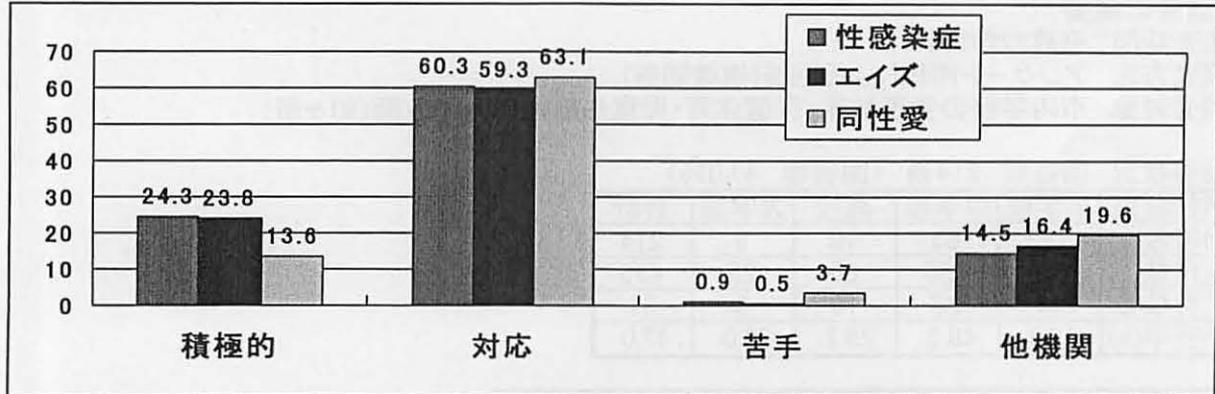
相談の背景に性的指向を感じたことがあるという回答は15.0%で、「中学校」・「高校」で高い傾向にありました。「養護教諭」では30.7%でした。



※図の数字はすべてパーセンテージです。

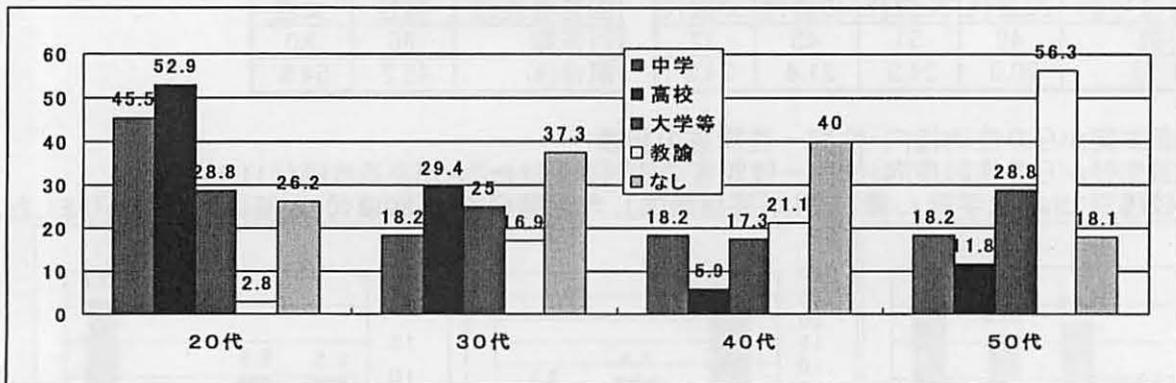
■ 児童生徒からの相談対応

児童生徒からの相談対応については、性感染症でもエイズでも同性愛でも、約8割の教師が対応したいと回答していました。



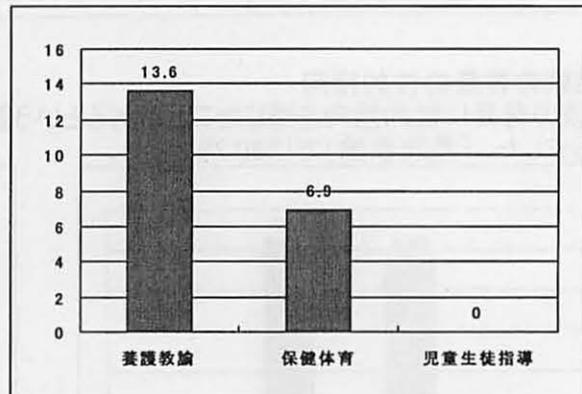
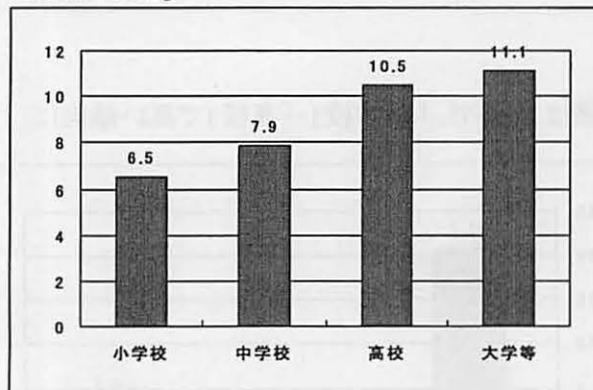
■ 同性愛や性的指向について学習した時期

同性愛や性的指向について学習した時期は、20歳代は中高が多く、50歳代は教師になってからの回答が多かったですが、学習したことがないという回答も29.4%見られました。



■ 性的指向の相談に役立つ教材の準備

性的指向の相談に役立つ教材の準備をしている教師は7.5%に過ぎず、もっとも多い養護教諭でも13.6%でした。



■ まとめ

- ・1割以上の教師が性的指向・性同一障害の相談を受けていて、15%が相談の背景に性的指向を感じたことがあるという回答していました。
- ・8割程度の教師が相談に対応したいと考えていましたが、現実に教材の準備している教師は7.5%に過ぎず、学習したことがない教師も29.4%に達していました。

アンケートにご協力いただきました市内学校の先生方に厚く感謝申し上げます。

平成22年11月 横須賀市保健所健康づくり課集計